

仮庵の祭と勝利の入城

2013年9月20日

聖書の例祭は「定められた日」であり、それらには象徴的な、そして預言的な意味を持ちます。それらはたとえのようなものであり、段階に分けて理解されるものです。さらに、トーラーの中にある農業的、そして歴史的意味に加えて、例祭の新約聖書における成就があります。

福音書と使徒行伝での主な出来事は春の例祭の間に起こりました。終わりの日々の主な出来事は秋の例祭とつながりがあるように思われます。それらは次のように要約することができます。

春:

ペサハ(過越の祭) - 十字架

オメル(最初の収穫の束) - 復活

シャヴオット(七週の祭) - 聖霊

秋:

テウラー(ラツパを吹き鳴らす祭) - 艱難

キプール(大贖罪日) - 再臨

スッコート(仮庵の祭) - 千年王国

今週、私たちは仮庵の祭をお祝いします(レビ記 23:33-43)。仮庵の祭で用いられる70頭の雄牛(訳注: 神殿があった時の風習)は祭司による世界の諸国のための執り成しの祈りを表します(民数記 29、申命記 32:8)。農業的な象徴は、感謝をもって実と枝を持参しそれを主の前で揺り動かします(ネヘミヤ 8:9-18)。仮庵の祭の時、諸国の人々はエルサレムにやって来て、千年王国の時に賛美を捧げるのです(ゼカリヤ 14:16)。

ヨハネ 12:12-15 に、十字架にかかる直前、イエシュアはロバに乗ってエルサレムに入城し、その時人々はシュロの枝を振りました。人々は主をお迎えし、「バルーフ・ハバー」や「ホサナ」と叫び、主を「イスラエルの王」と呼びました。これは「勝利の入城」とよく呼ばれているものです。しかし、その呼称にいくつかの問題があります。恐らく、それは「へりくだった入城」または、「勝利の入城のリハーサル」と呼ばれるべきでしょう。そこにはまた、タイミングの問題もありました。

- トーラーに詳しい人々なら即座にシュロの枝が過越ではなく仮庵の祭に揺り動かされると理解します。(レビ記 23:40)

- イエシュアは最初にロバに乗ってエルサレムに入城しました。それは、苦しみを受けられるためであり、それゆえ私たちに救いをもたらしたのです。(ゼカリヤ 9:9)しかし、主が次に来られる時は、白い馬に乗って勝利のうちに支配されるのです(黙示録 19:11)。
- 人々が正しく、主をお迎えするにあたり「ホサナ」と「バルーフ・ハバー」と叫ぶ際、同時にその預言の中に、主はまず宗教指導者らによって拒絶されなければならないと述べられています(詩篇 118:22-26)。
- イエシュアは確かにイスラエル王であり、御国を立ち上げられるのですが、主はイスラエルの王だけでなく、「教会の頭」として来られなければなりません(エペソ 1:21)。

[タイミングに関するその他の奥義については、マタイ 16:3、24:3、マルコ 11:13、ルカ 19:42-44、ヨハネ 6:15、18:36、使徒行伝 1:6-7、ローマ 11:25、その他をご覧ください。]

さらに大いなる成就の時があるはずです。それは春の例祭ではなく、秋の例祭につながるものでしょう。それは第一世紀ではなく、終わりの世紀となるでしょう。そして、それはイスラエルだけでなく、すべての諸国の残りの者が含まれるでしょう。そして、私たちは本当の、王であるメシア、イエシュアがエルサレムに入られる「勝利の入城」を見ることができるでしょう。そしてそれは主のすべての栄光のためであり、すべての地上を正義、平和そして喜びで支配されるのです。

イスラエルー中国、御国を目的とする集会

中国本土の中国人クリスチャンとイスラエル人メシアニックジャー指導者らとの、第二回目仮庵の祭集会が今週行われますので、どうかお祈り下さい(マオツ・イスラエルとリバイブ・イスラエルとの共同開催)。今年、中国人とイスラエル人両方に、このつながりの重要性を理解する事において重要な突破口がありました。とりわけ、マオツ・イスラエルとリバイブ・イスラエルの両チーム、ポール・ヤン(若い中国人使徒)、ポールとフランシー・イエー(メロディ・オブ・マイ・ハート(我が心のメロディ))そしてアリ・ソーコラム(今年の集会の代表)のためにどうぞお祈り下さい。

シリアの前線

ゴラン高原のヤイル将軍はイスラエル国防軍の北部司令官であり、彼は今週レバノンーシリア前線に関する彼の見解についてインタビューを受けました(イエディオット・ムサフ:2013年9月18日付)。彼は、アサド大統領は効率的に支配する事ができないため、しかも反乱分子が代替案を提供できないため、恐らく長期に渡る不安定な状況になると述べました。彼はまた、代替案がないが、現在の政権が続く事は倫理的にも受け入れられない、それは、現政権が数万人もの人々を殺したからだとして述べました。シリア軍は備蓄していたミサイル 40%を越える量を自国民に対して用いてきました。

(そうでなければ、潜在的にイスラエルに向けて使おうとしていたものと思われます)。

およそ6,000人のイスラム過激派(アルカイダ関連)がシリアにいと予想されていますが、シリア軍に比べ、彼らはまだ比較的少数で、装備は未熟であるので、現時点においてまだ脅威とはなっていないのです。

最近の戦闘において、イランーヒズボラーシリアの「悪の枢軸」のつながりを強化させました。ヒズボラはミサイル備蓄を二倍にし、100,000(!)を越える量に増やし、2006年以降より高性能なロケットを備蓄しました。ヒズボラはアサド政権を支援するために兵を送る同意しました。そしてシリアを通してヒズボラへ武器が継続して渡るように同意しています。それらの武器の大半は市民が密集している市街地に意図的に配備され、それは、イスラエルに対する戦闘を開始させるものであり、主な破壊はレバノンの街々に及ぶであろうと思われます。

ヨム・キプール

ヨム・キプール集会はすばらしかったです。それは別の重要な突破口となりました。聖霊の力が例祭の中で充ち満ちました。そこでは悔い改め、賛美、断食そして執り成しの祈りがありました。ヘブル書全体が音読されました。Congregation間と指導者たちの間的一致には何の妨げもありませんでした。(ユダヤ人信者である私たちとしては、それは奇跡です!)ハイム・ワルシャウスキー師の伝統的な賛美には、油注ぎの力が満ちていました。教会とユダヤ人両方を浸食する呪いのルーツを壊す、大贖罪日の意味について、至聖所へ血を携えて入って行く事など、様々な啓示的な教えがありました。皆様の祈りを感謝致します。